

2023 年度

東北学院大学 履修証明プログラム

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）

スキルアッププログラム

自己点検・評価報告書

2024 年 12 月

東北学院大学

地域連携センター

1. はじめに

東北学院大学（以下、「本学」という）は設立以来、地域連携・社会貢献をその重要な使命の一つとして位置づけてきた。2014年、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択され、その取り組みをもとに、学卒者養成のみならず、地域社会の活性化、地域福祉の充実を担いうる社会人教育を実践するため、2016年度に「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム」（以下、「CSWスキルアッププログラム」または「本プログラム」という）を開設した。2023年度に開講8年目を迎えた本プログラムの自己点検・評価結果を、本報告書にまとめた。

2. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムとは

CSWスキルアッププログラムは、地域福祉・社会福祉現場の課題に直結する本格的、実践的な授業内容を通して、まちづくりのキーパーソンであるコミュニティソーシャルワーカーのスキルアップを目指す教育プログラムである。

本プログラムは、本学の重要な使命の一つである、地域連携・社会貢献に寄与すべく、学校教育法第105条及び学校教育法施行細則第164条に基づき、2016年4月より履修証明プログラムとして開講している。開設以来、宮城県内の社会福祉、地域福祉分野に従事する社会人が中心に受講され、2023年度末時点で、累計修了者数は80名を超えた。

なお、2016年度の開設時より文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されている。

3. 教育プログラム等の内容

CSWスキルアッププログラムは開講科目を、基礎科目、必須理論、実践技法、特論演習、事例研究の5つに分類し、体系的かつ包括的な内容となるようプログラムを構築している。上述の科目分類のうち、基礎科目及び必須理論を構成する科目群を必修科目とする一方、実践技法、特論演習及び事例研究の科目群は選択科目として設置し、受講生の興味・関心に応じた履修を可能にしている。また、開講期間のおおよそ中間時に「中間報告会」、最終科目に「最終報告会」を設け、それぞれの段階における修得度等を測定している。

(1) 受講要件

本プログラムは、以下の2つを受講要件として定めている。

- ① 高等学校、または中等教育学校を卒業した者。または、大学を受験できる資格を取得した者。
- ② 社会福祉協議会に関わる職員。ただし、地域づくりに貢献したいと考える方の受講も可能。

※社会福祉分野における就業経験等を持たない場合でも、地域づくりに貢献したいという意味を持つ者については、受講可否判定のうえ受講を認めている。

そのため、十分な受講意思・意欲等があると判断された場合、大学生等の受講も可能。

(2) カリキュラム

2023年度は、必修科目19科目(57時間)、選択科目30科目(90時間)の計49科目(147時間)によるカリキュラムを構築した。設置科目の具体的な内容は、次表記載の通りである。

2023年度 開講科目・担当講師一覧(講師の所属等は2023年3月(受講生募集)時点)

科目分類	科目名	担当講師	担当講師所属	時 数
必修科目	地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク	阿部 重樹	学校法人東北学院	3
	コミュニティソーシャルワークⅠ	村山 くみ	東北福祉大学総合福祉学部	3
	コミュニティソーシャルワークⅡ	村山 くみ	東北福祉大学総合福祉学部	3
	ケースワーク	竹之内 章代	東北福祉大学総合福祉学部	3
	社会保障制度の新たな動向Ⅰ	阿部 裕二	東北福祉大学総合福祉学部	3
	社会保障制度の新たな動向Ⅱ	宮城県職員 仙台市職員	宮城県 仙台市	3
	コミュニケーション基礎論とICT活用	坂本 泰伸	東北学院大学地域連携センター/情報学部	3
	データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅰ	鈴木 寿則	仙台白百合女子大学人間学部	3
	データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅱ	鈴木 寿則	仙台白百合女子大学人間学部	3
	データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅰ	黒坂 愛衣	東北学院大学地域総合学部	3
	データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅱ	黒坂 愛衣	東北学院大学地域総合学部	3
	地域の施策と資源理解Ⅰ	西塚 国彦	宮城県社会福祉協議会	3
	地域の施策と資源理解Ⅱ	岩渕 徳光	仙台市社会福祉協議会	3
	地域社会とCSR(企業の社会的責任)	矢口 義教	東北学院大学経営学部	3
	組織運営	和田 正春	東北学院大学地域総合学部	3
	地域福祉活動計画Ⅰ	岩渕 徳光 佐々 利春	仙台市社会福祉協議会 富谷市社会福祉協議会	3
	地域福祉活動計画Ⅱ	増子 正	東北学院大学地域総合学部	3
	ボランティア論	千葉 真哉	東北学院大学教養教育センター	3
	中間報告会(グループワーク)	渡邊 圭	東北学院大学地域連携センター	3
	最終報告会(グループワーク)	渡邊 圭	東北学院大学地域連携センター	3

選 択 科 目	実 践 技 法	地域福祉とファンドレイジングⅠ	久津摩 和弘	一般社団法人日本地域福祉 ファンドレイジングネットワー クCOMMNET	3
		地域福祉とファンドレイジングⅡ	久津摩 和弘	一般社団法人日本地域福祉 ファンドレイジングネットワー クCOMMNET	3
		協働の手法Ⅰ	遠藤 智栄	地域社会デザイン・ラボ	3
		協働の手法Ⅱ	遠藤 智栄	地域社会デザイン・ラボ	3
		ファンリテーションの実際とワークショップ運営	渡邊 一馬	一般社団法人ワカツク	3
		ファンリテーショングラフィック	石塚 直樹	東北学院大学地域連携センター	3
		健康格差論	鈴木 寿則	仙台白百合女子大学人間学部	3
		傾聴の技法	阿部 重樹	学校法人東北学院	3
		コミュニティビジネス	吉澤 武志	一般社団法人筆甫地区振興 連絡協議会	3
		臨床宗教学(聴くことのカーカフェでもんくの事例から)	金田 諦應	曹洞宗大通大寺住職	3
選 択 科 目	実 践 技 法	対人コミュニケーションと心理的援助	臼倉 瞳	東北学院大学人間科学部	3
		発達障害者支援	皆川 美雪	宮城学院女子大学学生相談室	3
		ソーシャルワーク・スーパービジョン	塩村 公子	佐久大学人間福祉学部	3
		認知症の理解と地域支援	石原 哲郎	脳と心の石原クリニック	3
		非営利とは何か ー生活と生業の支援から考えるボランティアの臨界ー	齊藤 康則	東北学院大学地域総合学部	3
	特 論 演 習	特論演習:高齢者支援と地域社会	西澤 英之	宮城県社会福祉士会	3
		特論演習:生活困窮者支援と地域社会	後藤 美枝	一般社団法人パーソナルサ ポートセンター	3
		特論演習:子育て支援と地域社会	小岩 孝子	特定非営利活動法人 FOR YOU にこにこの家	3
		特論演習:障がい者支援と地域社会	伊藤 清市	社会福祉法人宮城県障がい 者福祉協会	3
		特論演習:精神障がい者支援と地域社会	菅原 里江	東北福祉大学総合福祉学部	3
		特論演習:SDGsと地域社会	紅邑 晶子	一般社団法人 SDGsとうほく	3
		特論演習:災害とコミュニティソーシャルワーク	渡邊 圭	東北学院大学情報学部	3
		特論演習:三次救急病院からの地域移行	澤井 彰	仙台市立病院	3
	事 例 研 究	事例研究:仙台市におけるコミュニティソーシャルワーク	大久保 環	仙台市社会福祉協議会	3
		事例研究:南三陸町におけるコミュニティソーシャルワーク	高橋 吏佳	南三陸町社会福祉協議会	3
		事例研究:女川町におけるコミュニティソーシャルワーク	千葉 信二	女川町社会福祉協議会	3

	事例研究:柴田町におけるコミュニティソーシャルワーク	相原 美由紀	柴田町地域包括支援センター	3
	事例研究:地域活動とコミュニティソーシャルワーク	増田 恵美子	Narita マルシェ	3
	事例研究:成年後見制度とコミュニティソーシャルワーク	千脇 隆志	社会福祉士事務所いろは	3

(3) 修了要件

本プログラムは、以下の3つを修了要件として定めている。

- ① 120 時間以上（必修科目 57 時間、選択科目 63 時間以上）の講義を履修し、実出席時間が 96 時間以上であること（欠席時は、授業収録映像を視聴する）
- ② 履修科目ごとに提出するミニツツペーパーの点数が合格ライン以上であること
- ③ 最終報告会で合格の評価を得ること

(4) フォローアップ授業科目

修了生に対する学びのサポートとして、2018 年度より「フォローアップ授業科目」制度を設けている。2023 年度は、以下の 7 科目をフォローアップ授業科目として、修了生にも公開した。

2023 年度 フォローアップ授業科目一覧

科目名	担当講師	担当講師所属	時数
ボランティア論	千葉 真哉	東北学院大学教養教育センター	3
ソーシャルワーク・スーパービジョン	塩村 公子	佐久大学人間福祉学部	3
認知症の理解と地域支援	石原 哲郎	脳と心の石原クリニック	3
対人コミュニケーションと心理的援助	臼倉 瞳	東北学院大学人間科学部	3
特論演習:三次救急病院からの地域移行	澤井 彰	仙台市立病院	3
特論演習:災害とコミュニティソーシャルワーク	渡邊 圭	東北学院大学情報学部	3
事例研究:成年後見制度とコミュニティソーシャルワーク	千脇 隆志	社会福祉士事務所いろは	3

4. 広報活動、受講生等の状況

(1) 広報活動等の状況

① 募集要項（パンフレット）の作成

募集要項（パンフレット）を毎年度作成している。募集要項は、名義後援団体の他、宮城県内の社会福祉法人や地域包括支援センター等に送付している。送付先団体からは毎年度受講の申込みがあり、広報活動として一定の効果があると考えられる。

② 名義後援団体への広報

C S Wスキルアッププログラムは、宮城県、仙台市を始め、下表記載の 40 団体から名義後援を受けている。全ての名義後援団体に対し、継続的に募集要項等を送付し、広報活動を行っている。名義後援団体からは、プログラム運営への支援の他、所属職員等から毎年度複数名の受講申込みがあり、広報活動の効果が認められる。

2023 年度 名義後援団体

宮城県	名取市社協	富谷市社協	亘理町社協	色麻町社協
仙台市	角田市社協	蔵王町社協	山元町社協	加美町社協
宮城県社協	多賀城市社協	七ヶ宿町社協	松島町社協	涌谷町社協
仙台市社協	岩沼市社協	大河原町社協	七ヶ浜町社協	美里町社協
石巻市社協	登米市社協	村田町社協	利府町社協	女川町社協
塩竈市社協	栗原市社協	柴田町社協	大和町社協	南三陸町社協
気仙沼市社協	東松島市社協	川崎町社協	大郷町社協	仙台市地域包括支援 センター連絡協議会
白石市社協	大崎市社協	丸森町社協	大衡村社協	みやぎ生活協同組合

※上表における「社協」は社会福祉協議会を表す

③ 本学ウェブサイトでの広報

本プログラムの運営主体である、地域連携センターのウェブサイト*内で募集要項のデータを掲載するなど、プログラムの紹介を行っている。

④ マナパスへの掲載

リカレント教育等の情報発信サイト「マナパス**」に、毎年度最新の講座情報を掲載している。全国のリカレント教育情報等をまとめたサイト上で広報を行うことにより、本プログラムの知名度上昇が期待される。

(2) 受講生等の状況

① C S Wスキルアッププログラム受講生

2023 年 2 月から募集要項を公開して 4 月 7 日までの間、受講生の募集を行い、10 名からの受講申込みがあった。審査の結果、10 名全員が書類審査を通過し、C S Wスキルアッププログラム受講生として認められた。

* 東北学院大学地域連携センター <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/iprc/program-2>

** マナパス <https://manapass.jp/>

CSWスキルアッププログラム 申込み者数・受講生数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
申込み者数	18名	15名	10名	11名	9名	10名	10名	10名
(うち、本学学生数)	(1名)	(1名)	(0名)	(1名)	(1名)	(0名)	(0名)	(0名)
受講生数	14名	14名	10名	11名	8名	10名	10名	10名
(うち、本学学生数)	(0名)	(1名)	(0名)	(1名)	(1名)	(0名)	(0名)	(0名)

② フォローアップ授業科目聴講生

2023年度は7科目をフォローアップ授業科目として設置し、2名が申込み、授業を聴講した。

5. 自己点検・評価体制等について

本プログラムは、毎年度自己点検・評価を実施することにより、PDCAサイクルを実行し、プログラム内容や運営体制等に関する質の向上を図っている。

(1) 自己点検・評価の体制

毎年度の受講・修了状況や、担当教員・受講生からの意見等に基づき、教育カリキュラムの内容や運営体制等、本プログラム全般に関する自己点検・評価を行う。

学外の外部委員を含むCSWスキルアッププログラム運営会議及び地域連携センター会議において、点検・評価を行い、その結果は学内会議を通じて学長に報告する。

(2) 自己点検・評価の公表

自己点検・評価の結果については、本学地域連携センターのウェブサイト等で公表する。

6. 受講生（修了生）アンケート実施結果

2023年度CSWスキルアッププログラム修了生を対象に以下の通り、アンケート調査を実施した（回収期間：2024年4月3日～4月14日。回答数：対象10名のうち8名（回収率：80%））。

1. 2023年度のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム（以下、本プログラム）全体に対する満足度を教えてください。（選択式/必須回答）

■満足している →5名

■どちらかといえば満足している →3名

■どちらかといえば不満がある →0名

■不満がある →0名

2. どのような成長・効果を期待して本プログラムを受講されましたか。以下の選択肢の中から、当てはまるものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

- CSW や類する役割での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得 →7件
- 所属する団体での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得 →1件
- 新たな分野・領域に関する知識・スキル等の習得 →6件
- ファシリテーション能力等、CSW や類する役割に求められる特定のスキルの習得・向上 →4件
- ICT 活用等、業務全般をより円滑に進められるスキルの習得・向上 →1件
- CSW や類する役割に必要な最新知識の習得 →3件
- 外部の組織とのネットワーク作り →3件

3. 前問で回答いただいた内容を習得することはできましたか。（選択式/必須回答）

- 十分に習得できた →2名
- どちらかといえば習得できた →6名
- どちらかといえば習得できなかった →0名
- 全く習得できなかった →0名
- 現時点では業務と直接関係がないため、習得できたか否かの判断ができない・難しい →0名

4. 本プログラムの受講により、ご自身の成長や、業務への良い効果を感じるかについて教えてください。（選択式/必須回答）

- とても感じる →3名
- どちらかといえば感じる →2名
- どちらかといえば感じない →1名
- 全く感じない →0名
- 現時点では感じないが、今後効果を実感できると思う →2名

5. 【設問4で「とても感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した方のみ】

※回答対象者5名

本プログラムの受講により、自身の成長や業務への良い効果を「とても感じる」または、「やや感じる」とお答えいただいた方にお伺いします。自身の成長した点や良い効果をもたらしている点について、具体的に教えてください。（記述式/自由回答）

- 今後、ボランティア活動や地域の活動に取り組んでいく上で、本プログラムで学んだCSWの機能や地域福祉の視点を意識した活動が展開できるのではないかと思います。また、長くかかわってきた教育の仕事や家族の介護、自身の病など、これまでの経験を含めたすべてがインフォーマル資源となりうることを実感し、今後の生き方を考える上で貴重な学びを得ることができました。

- CSW とは、、、というところからCSWの知識が薄かったのだが、役割や期待される場所などCSWの理解が深まった。
- CSWの役割がわかったので、自分の立場でも支援における連携が図れた。CSWにどういふことを相談したらいいかわかった。職種間で話し合いの場を持つことができた。”
- 自分が学んだことの無い分野を、1つずつ深く学ぶことができた。
- 自分の現在行っている生涯学習関係に直結して役立つ内容だったことと、自分が普段から対応に悩む内容が授業で説明された。また自分の置かれている状況だけでなく、法律的な面や国策や世の中の流れ等全体的に考えられるようになった。当初通学の目的とした「自分の指針」は持てるようになったと感じる

6. 【設問4で「とても感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した方のみ】

※回答対象者5名

本プログラムの受講により、自身の成長や業務への良い効果を「とても感じる」または、「やや感じる」とお答えいただいた方にお伺いします。自身の成長や業務への良い効果に関連して、特に役立った講座や内容について、具体的に教えてください（記述式/自由回答）

- ・コミュニティソーシャルワーク（村山先生）・社会保障制度の新たな動向（阿部裕二先生）
 - ・コミュニケーション基礎論とICT活用（坂本先生）
 - ・データによる社会調査・分析（黒坂先生）
 - ・地域社会とCSR（矢口先生）
 - ・組織運営（和田先生）
 - ・地域社会とファンディング（久津摩先生）
 - ・協働の手法（遠藤先生）
 - ・ファシリテーションの実際とワークショップ運営（渡邊先生）
 - ・ソーシャルワークスーパービジョン（塩村先生）
- ・特論演習（全）
- ・事例研究（全）
- ・中間報告会、最終報告会”
- 福祉の状況、課題、制度など福祉全般について学ぶことができた。特に黒坂愛衣先生、石塚直樹先生、金田先生、増田恵美子先生などの講義は心に響くものがあり、相談援助に大きく役立つ内容であった。
- コミュニティソーシャルワーク、ケースワーク、社会保障制度、社会調査、地域福祉とファンディング、協働の手法、ファシリテーション、特論演習、事例研究
- 協働の手法
- 富谷市「なりたマルシェ」の講座は特に印象に残っている。「思い」が大事との言葉には共感し勇気をいただいた。渡邊先生のファシリテートで、自分が現場で実践する際により具体的なノウハウを知ることができた。

7. 授業を受講するにあたってのサポート体制に対する満足度はいかがでしたか。（選択式/必須回答）

- 満足している → 6名
- どちらかといえば満足している → 2名
- どちらかといえば不満がある → 0名
- 不満がある → 0名

8. 現行のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムでは、修了要件のひとつに「120時間以上の講義を履修すること」を設けています。この要件を緩和できると想定した場合、「120時間以上」に対する実感として最も近いものを選んでください。（選択式/必須回答）

■適切 → 2名

■負担は大きいですが、必要な時間数であるため減らさない方が良いと思う → 3名

■負担が大きいため、減らした方が良いと思う → 2名

■その他 → 1名

【その他】の回答内容：私は現職でも専門職でもない立場で受講したので、負担を感じることはありませんでしたが、この項目については現職の方、専門職の方の意見が重要かと思えます。

9. 【設問8で「負担が大きいため、減らした方が良いと思う」と回答した方のみ】

※回答対象者2名

「120時間以上の履修時間」について「負担が大きいため、減らした方が良いと思う」とご回答いただいた方にお伺いします。2023年度に受講された実感から、何時間程度が適切と思われるか教えてください。（選択式）

■60時間程度（2023年度の1/2の時間数） → 0名

■60時間～90時間程度（2023年度の1/2～3/4の時間数） → 2名

■90時間～110時間程度（2023年度の3/4、または微減程度の時間数） → 0名

■その他 → 0名

10. 本プログラムは、4月に開講し、3月に閉講（修了判定含む）するという1年間のプログラムとして開講しています。プログラムの開講期間について、以下の選択肢の中から、最も実感に近いものを選んでください。（選択式/必須回答）

■適切 → 2名

■負担は大きいですが、必要な期間であるため短くしない方が良いと思う → 4名

■負担が大きいため、短くした方が良いと思う → 1名

■その他 → 1名

【その他】の回答内容：セクション6と同様ですが、講義数から考えると必要な期間ではないかと思えます。

11. 【設問 10 で「負担が大きいため、短くした方が良いと思う」と回答した方のみ】

※回答対象者 1 名

「1 年間の開講期間」について「負担が大きいため、短くした方が良いと思う」と回答いただいた方にお伺いします。2023 年度に受講された実感から、どのくらいの開講期間が適切と思われるか教えてください。（選択式）

■ 6 ヶ月程度 → 1 名

■ 6 ヶ月以上 1 年未満 → 0 名

12. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムをお知りになられた経緯について、以下の選択肢の中から該当するものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

■ マナパス → 0 件

■ 本学のウェブページ → 0 件

■ 所属する団体への本学からの郵送物等 → 3 件

■ 所属する団体内でのメール等でのお知らせ → 1 件

■ 所属する団体内での口コミ → 2 件

■ 所属【外】の団体からのメール等でのお知らせ → 0 件

■ 所属【外】の団体の方からの口コミ → 0 名

■ その他 → 3 件

【その他】の回答内容： 本学の職員の方から勧められた
所属団体からの案内

13. 本プログラムの受講を同僚等周囲の方に勧めたいかについて、以下の選択肢の中から、該当するものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

■ CSW や類する役割での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得が必要な方に勧めたい → 6 件

■ 所属する団体での業務に関する全般的な（CSW の役割に限らない）知識・スキル・態度等が
必要な方に勧めたい → 6 件

■ 新たな分野・領域に挑戦する方に勧めたい → 1 件

■ ファシリテーション能力等、CSW や類する役割に求められる特定のスキルを
習得・向上させたい方に勧めたい → 3 件

■ ICT の活用等、CSW の役割に限らない業務全般をより円滑に進められるスキルを
習得・向上させたい方に勧めたい → 1 件

■ CSW や類する役割に必要な最新知識を身に付けたい方に勧めたい → 3 件

- 外部の組織とのネットワークを作りたい方に勧めたい → 3件
- 受講を勧めたいとは思わない → 0件
- その他 → 0件

【その他】の回答内容：CSWとして2年くらい勤務した職員に進めたい。

14. 本プログラムでは、修了生のみなさんに一部授業を無料で公開する「フォローアップ授業科目制度」を設けています。この他に、修了生のみなさまを対象とした制度等で希望されるサポート体制等がありましたら、教えてください。（記述式/自由回答）

- フォローアップ授業科目制度の中の授業以外でも、もう一度話を聞きたい授業について希望すれば動画視聴できるようにしてほしい。
- 希望者で研修会や発表会を卒業生で実施できる機会があればと思います。
- 特になし。「フォローアップ授業科目制度」についてはありがたいと思います。

15. 本プログラムで教えてほしかったこと（教育内容）がありましたら、ご自由にご回答ください。（記述式/自由回答）

- 個別支援、地域支援について、もう少しコマ数を増やしてほしい
- 行なわれた授業だけでも十分でしたが、増えるのであれば各地の事例紹介を増やして欲しいと思います

16. 本プログラムを受講して良かったこと、または有益だと感じる内容がありましたら、教えてください（教育内容、事務局体制等のプログラム全般に関する内容で結構です）。（記述式/自由回答）

- 受講する前と後では、ファシリテートをしている録音内容が格段に違いを感じています。発表的な能力やグループ員と話すのが大事を強く学べ良かったと思います。
- 所属団体以外の職員や講師等との繋がりが生まれたこと。知らなかった知識を知る機会となったこと。
- 専門職の方には、たくさんの方に受講していただきたいと思う内容だと思いました。また専門職以外の立場で地域福祉に関心のある人に門戸を開いているのはありがたく、重要なことでもあると思いました。事務局の皆さんのサポート体制には頭が下がる思いでした。本学で学ぶ学生へのサポート体制も想像でき、学ぶ環境の質の高さを感じました。
- 福祉の現状を肌で感じる事ができた。大学生がどのような福祉を学んでいるのかを垣間見ることができた。

17. 本プログラムを受講して困ったこと、または改善してほしいことがありましたら、教えてください
(教育内容、事務局体制等のプログラム全般に関する内容で結構です)。(記述式/自由回答)

■各講義の時数については、本プログラムのカリキュラムで決められていて変更できないものかもしれませんが、2コマだけでは足りないと感じた講義がありました。選択科目の実践技法の中の「ファシリテーションの実際とワークショップ運営」は顕著に感じた講義でした。この講義は、専門職ではない私も大変興味深く受講しましたが、専門職の立場の受講生は講義が終了してからも講師の先生への質問が続いていました。専門職の方たちにとっては、講義の内容が、それほど現場が知りたいことと合致していたということではないかと思います。次の講義が始まるぎりぎりまで先生は丁寧に応じられていて、それも印象に残っています。また講義の中で、もっと詳しく聞きたいと思ったことも、時間の都合で急ぎ足になったりとばしたりせざるを得ない場面もありました。一方で、例えば「傾聴の技法」などは、福祉や教育関係者にとっては日頃の業務の中で熟知している内容でもあり、講義として入れなくてもよいのではと感じました。講義の内容や時数などは、さまざまなことを充分検討して設定されているものと思いますし、制約もあることと理解しますが、ご検討いただければと思います。”

■講義の開始時間をもう少し早めて、終了時間も早まるといいと感じた。

18. その他、本プログラム全般に対し、ご意見、ご感想等がありましたら、ご自由にご回答ください。

■きめ細やかなご対応をいただき、とても感謝しております。有難うございました。

■東北学院大が地域の情報が集まる群を抜いた大学であることが改めて感じる機会になりました。今後もこのようなプログラムがあれば参加したいと思います。

※回答内容について、明らかな誤字・誤変換は事務局にて修正のうえ記載

※個人や受講生の所属団体が特定される可能性がある記述内容は記載せず

※自由記述において、「特になし」に類する内容は記載せず

7. 自己点検・評価について（アンケート等に基づく次年度以降への変更・検討等）

(1) 自己点検・評価、ならびに次年度以降への改善、充実等

① 広報活動

本プログラムは、社会福祉協議会や地域福祉分野に従事する者を主な受講対象者として想定しているため、宮城県内の社会福祉協議会や他の社会福祉法人等を広報

活動の主な対象としている。特に仙台市社会福祉協議会からは毎年度複数の受講申込みがあることから、広報活動については一定の効果があると評価できる。

しかしながら、社会福祉協議会を含む社会福祉法人のみを主な受講対象者として設定すると、より多くの受講生獲得は難しい。社会福祉法人等に対する着実な広報活動を継続しつつ、新たな受講生層（職業、居住地等）の開拓が今後も引き続き求められる。

② 教育カリキュラム、授業内容等について

(i) 教育カリキュラム全般について

「受講生（修了生）アンケート」の回答からもわかるように、本プログラム全体に対する満足度は非常に高い。本プログラムにおける教育カリキュラムの内容（設置科目等）については、毎年度効果検証を行い、改善を図っており、そのことが受講生の総合的満足度に結びついているものと評価できる。

(ii) 実務家教員の配置について

実務家教員の積極的配置は、本プログラムの大きな特徴であり、受講生からも好評を得ているため、今後も継続すべきである。

社会福祉分野等における実務家教員の配置は、名義後援団体等からの厚い支援により実現できている。現在の名義後援団体との関係性を継続するとともに、他団体等との連携・協力の可能性についても、今後検討を行う。

(iii) 学際性をもったカリキュラム構成等について

実務家教員の積極的配置に加え、学際性に富んだカリキュラム構成は本プログラムのもう一つの大きな特徴となっている。“学際性”は、コミュニティソーシャルワーカーの育成及びスキルアップを高等教育機関である本学が担うことの大きな意義であり、独自性とも言える。

8. 終わりに

C S Wスキルアッププログラムは開設から8年目を終え、累計修了生数は80名を超える。本プログラムは開設以来、受講生（修了生）アンケート等に基づき、絶えず教育カリキュラムの検証、改善を図ってきた。また、宮城県社会福祉協議会及び仙台市社会福祉協議会等との緊密な連携・協力関係を構築することにより、県内の社会福祉、地域福祉現場における最新の情報等を受講生に提供する努力を重ねてきた。

このように教育プログラムの改善サイクルを絶えず実行してきたことが、受講生の1年間の学習に対するモチベーションを保ち、高い修了率を維持することに繋がっている。毎年度の修了生から、プログラム全体に対する高い満足度を得られていることも、その証左と言える。

CSWスキルアッププログラムは、2024年現在、本学が開講する唯一の履修証明プログラムである。本プログラムについては、自己点検・評価体制に基づくPDCAサイクルを絶えず実行することにより、引き続き改善、充実を図る。今後はさらに、本プログラムの運営により得られたリカレント教育の実施・運営に関するノウハウ等を蓄積し、本学における社会人教育の運営体制確立にも寄与することを目指していく。